



スのメンバーで、スーザン東部で活動を継続しております。この措置には、

（国際協力機構）に名目を変え、実質はロシナンテスのメンバーで、スーザン東部で活動を継続してあります。この措置には、

スー丹政府より活動停止命令が、ロシナンテスを含む7つの国際NGOに対し発出されました。しかし、スー丹政府と交渉の末、活動主体をJICA

が、ロシナンテスを含む7つの国際NGOに対し発出されました。しかし、スー丹政府と交渉の末、活動主体をJICA



ドンキーカーの贈呈を喜び、早速、乗り込む助産師たち

ハサバツラでの地域医療の経験をさらに発展させたい

理事長 川原尚行

先日、アルジェリアで不幸な事件が起こり、日本人も巻き込まれてしました。海外で活動する我々も、とても心を痛める事件でした。日本にいれば、アフリカでイスラム圏と

いうことで、アルジェリアもスー丹も同じような国として見る向きもあるでしょうが、その背景は全く異なります。スー丹の首都ハルツームは安全ですし、東部のほうも治安が乱れているという情報はほとんどありません。

さて、前号でお知らせしました通り、スー丹

政府より活動停止命令が、ロシナンテスを含む7つの国際NGOに対し発出されました。しかし、スー丹政府と交渉の

当初の計画では、今年の3月で活動を終える予定でしたが、途中中断があつたこともあり、活動を6月末で継続することに、スー丹政府とも合意に至りました。

スー丹では、新しい診療所の建設をすすめているところです。このマニスー拉には女子中学校の建設も行われました。

スー丹では、タクシーとしてもよし、また水タンクを併設していますので、水販売をしてよいです。収益は、村落助産師のものです。

先日、村落助産師さんたちが活躍しているガダーレフ保健省で表彰式を行いました。日頃、あまり脚光を浴びていませんので、彼女たちには、とても光栄なことのようでした。この表彰式のときに、ロバ車の贈呈式も併せて行いました。タイミングよく

JICAスー丹事務所および在スー丹日本大使館には大変お世話をっています。私自身、小さくともオールジャパンが形成されていると自負しております。ロシナンテスがこの地に入つてから、診療所、女子小学校、給水所が建設され運営されています。また、州政府より、ロシナンテスが当地域で活動していることを評価したうえで、電気の供給にもつながりました。それに伴い、その周辺地域の発展にもつながり、隣村のマニスー拉では、新しい診療所の建設をすすめているところです。このマニスー拉には女子中学校の建設も行わされました。

スー丹では、タクシーとしてもよし、また水タンクを併設していますので、水販売をしてよいです。収益は、村落助産師のものです。ロシナンテスが去った後も、これは継続させていかなければなりません。そこで、ロバ車の寄贈となりました。これを使えれば、彼女たちは移動できますし、患者さんの移送にも使えます。一般人を乗せて、タクシーとしてもよし、また水タンクを併設していますので、水販売をしてよいです。収益は、村落助産師のものです。

巡回診療のモデルとなるものを作ろうと計画しています。少しアイディアを広げて、学校教育も考えていました。そのために、一歩一歩、前進してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



認定NPO法人ロシナンテス
本部事務局発行

〒802-0066
北九州市小倉北区萩崎町9-35
TEL:093-922-6470
URL:<http://www.rocinantes.org>
E-Mail:info@rocinantes.org
編集担当:永松利一

 ROCINANTES
www.rocinantes.org

えずには継続すれば、それは援助される側の依存体質を生むことになります。我々は、あくまで「ともに歩む」を原則としています。そして、これからも、よき友として、我々は知恵を出していくことでしょう。

さて、その知恵ですが、そのひとつが、ロバ車（ドンキーカー）です。ロシナンテスは、村落助産師を雇用して、村々のお母さんと赤ちゃんの命を守る活動を行っています。彼らの村々での移動は、ロシナンテスの車を使います。もちろん、ロシナンテスから自負しております。ロシナンテスからこの地に入つてから、診療所、女子小学校、給水所が建設され運営されています。また、州政府より、ロシナンテスが当地域で活動していることを評価したうえで、電気の供給にもつながりました。それに伴い、その周辺地域の発展にもつながり、隣村のマニスー拉では、新しい診療所の建設をすすめているところです。このマニスー拉には女子中学校の建設も行わされました。

スー丹では、タクシーとしてもよし、また水タンクを併設していますので、水販売をしてよいです。収益は、村落助産師のものです。ロシナンテスが去った後も、これは継続させていかなければなりません。そこで、ロバ車の寄贈となりました。これを使えれば、彼女たちは移動できますし、患者さんの移送にも使えます。一般人を乗せて、タクシーとしてもよし、また水タンクを併設していますので、水販売をしてよいです。収益は、村落助産師のものです。

巡回診療のモデルとなるものを作ろうと計画しています。少しアイディアを広げて、学校教育も考えていました。そのために、一歩一歩、前進してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

国連機関の方の出席もあり、地元の文化に根差した発想とのことで、大きく評価されました。ガダーレフ保健省も、今後、ハサバツラ地区のみではなく、他の地域でも村落助産師さん

の育成、教育そしてロバ車の普及を行いたいと言つていました。実現することを願います。

たのが、村で出産前後の女性を家庭

助産師一人一人について、プロ

も加わり、妊婦の健診数などの統計

データの集計、分析とともに、村の母

親達や一緒に働く村落助産師達への

インタビューなど質的な評価もして

います。そして、今回、3年間を通し

プロジェクトのアドバイザーをして

くれている嶋井助産師に「最終評価

視察」に来ていたきました。今回

は、その時の様子をお伝えしたいと

思っています。

見せる!!

3年間の母子保健プロジェクトを行なう上で、キーパーソンとなつてい

る必要があります。ということで、それら

を踏まえ、今回行つたのが「村落助産師表彰式」です。

写真②では、地区別のお産や健診

の付き合い、彼女達からも「カリスマ

の空間で、日頃の仕事の疲れから解

放され、こんなにリラックスした表

情の彼女達を見るのは初めてでし

た。日本だつたら、まるで仕事帰り

に、皆で温泉につかっているよう

な雰囲気でしょうか。いつのまにか村

くれたならばと願います。(写真①村

ち上がつて真剣に見ていたまなざし

とり表彰される中、女子生徒達が立

ち上

がつて真剣に見ていたまなざし

は、とても印象的でした。この表彰式

が村人達にとって、次世代を担う女

の子達にとって、良い影響を与えて

くれたならばと願います。(写真①村

落助産師表彰式の様子)

は、とても印象的でした。この表彰式



「新たな一步 収穫祭」にて
2月上旬にビニールハウスの一部が完成し、元いちご農家の方々が定植したイチゴの苗が成長していました。参加者たちも余分な茎を取り除く作業をしま

じいちゃん・おばあちゃん30名を月曜日から金曜日まで、1チーム6人の5チームに分け、週に一回参加していただきます。

**ゼインくん
だより**

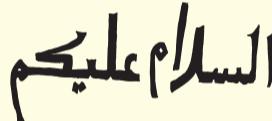
いままで一年 たん ぐらい
日本にいます。
その間は日本から
たくさん日本へ遊びました。
さいしゆからひとりで
日本にきたら怖かったです。
でもすこしずつ日本になれました。

ロシナンテスのスタッフ
私のホストマリからたくさんの
サポートしてもらいました。
ほんとにありがとうございます。
私もこれまで来年も勉強と
サッカーがんばります。

عبدالرحمن زين العابدين
ゼネラビデーン


アラビア語講座**「あいさつ」**

スーダンでの挨拶は「アッサラーム アライクム」と言います。直訳すると、「あなたがたの上に平安がありますように」という意味で、素敵な挨拶です。朝や昼といった時間には関係なく、出会った時にも別れる時にも相手に平安が訪れるよう祈って、この言葉を口にします。



アッ・サラーム アライクム
as-salaamu `alaykum

私はロシナンテスを知った時、川原先生の人間性や生き様、その全てに心を打たれました。もっと多くの人にロシナンテスを知って欲しいという思いから、川原先生を学校にお招きし、講演会を企画致しました。また昨年1月には東北でのボランティア活動にも参加させて頂きました。19歳の私が出来ることは



平田諒子さん
神奈川県在住

この発端ですが、夕方に40度の熱があると連絡があり、すぐに済生会八幡総合病院の救急を受診させました。流行のインフルエンザは陰性でした。それでも熱があるので、解熱剤をもらい、翌日、内科を受診して詳しく調べることになりました。しかし、数日前にも発熱で受診しており、その後、周期的に高熱を出している症状から、私はマラリアを疑いました。マラリアはスーダンでは一般的な熱帯感染症で、適切な投薬でなれます。ハマダラ蚊を媒介とし、

イン君が発熱。風邪かと思つていましたら、なんとマラリア(再発)でした。この発端ですが、夕方に40度の熱があると連絡があり、すぐに済生会八幡総合病院の救急を受診させました。流行のインフルエンザは陰性でした。それでも熱があるので、解熱剤をもらい、翌日、内科を受診して詳しく調べることになりました。しかし、数日前にも発熱で受診しており、その後、周期的に高熱を出している症状から、私はマラリアを疑いました。マラリアはスーダンでは一般的な熱帯感染症で、適切な投薬でなれます。ハマダラ蚊を媒介とし、

来日後、一年が経とうとした頃、ゼイン君が発熱。風邪かと思つていましたら、なんとマラリア(再発)でした。この発端ですが、夕方に40度の熱があると連絡があり、すぐに済生

会八幡総合病院の救急を受診させました。流行のインフルエンザは陰性でした。それでも熱があるので、解熱剤をもらい、翌日、内科を受診して詳しく調べることになりました。しかし、数日前にも発熱で受診しており、その後、周期的に高熱を出している症状から、私はマラリアを疑いました。マラリアはスーダンでは一般的な熱帯感染症で、適切な投薬でなれます。ハマダラ蚊を媒介とし、

ゼイン君
マラリア発症
(元・ロシナンテススタッフ)
済生会八幡総合病院 霜田治喜



通常、感染から2～3週間後に発症、高熱を繰り返します。ある種のマラリアは、肝臓に原虫が休眠状態で残ることがあり、後に突然、発症します。ハマダラ蚊のいない日本では、海外から帰国した人が、まれに発症します。一年近く日本いるゼイン君は、通常、マラリアだとは思われません。

事務職の自分が、医師にマラリアではないかと言ふことも難しく、困つていたところ、担当医が検査をして、マラリアであることを突き止めました。しかし、日本では珍しい病気だけに、対処に困りました。そこで担当医はスーダンにいる川原理事長に電話し、その結果、マラリアに詳しい久留米大

学病院のトラベルクリニックを受診

させることになりました。

翌日、私と海原事務局長が、ゼイン

の結果、三日熱マラリアと診断され、

君を久留米に連れて行きました。受診

の結果、三日熱マラリアと診断され

**国内
の
活動**

『第4回 集え！若きロシナンテたち!! in福岡』 2013年3月31日(日)JR九州ホールにて開催しました

第4回目となる『集え！』は、北九州から福岡へ開催場所を移し、博多駅直結のJR九州ホールで実施しました。イベントの企画等は九州大学の復興支援チーム「このゆび」に依頼し、準備をしてもらいました。当日は約400名の方にご参加頂き、大変盛況となりました。



当日のプログラム

《第一部》 ロシナンテス・フィルム上映『ひとりはみんなの為に、みんなはひとりの為に』
 《第二部》 川原尚行 基調講演『俺が今考えていること～スーダンで8年、東北で2年やつてきて～』
 《第三部》 ゲストトーク ～ひとり／70億人の立場から～『ひろい世界のちいさな私にできること』(登壇者)理事長・川原尚行／東北事業部・大島一馬／NPO法人底上げ・矢部寛明氏／Youth for 3.11代表・島田悠司氏(ファシリテーター)古瀬正也氏

《展示・出店》 みちのくcaravan[写真展示]
 詩あわせ絵師・武田暢博氏[詩画展示]
 K-style music[弦楽器(カルテット)生演奏]
 カフェ・ガレリア[軽食などの販売]

当日の様子

開場と同時にお客様が続々と入場し、展示を熱心に見られたり、音楽に耳を傾けながら、開演までの時間を過ごしていただきました。会場には、福岡からだけではなく、九州や山口、関西や関東からたくさんの方が集まってくれました。開演すると会場内は満席近くとなり、皆様、真剣に話を聞いてくださいました。また、パネルやディスカッションでは、様々な話が展開され、会場には笑いや拍手が起り、楽しい時間となりました。プログラム終了後には、ロビーにてゲストと交流する時間を設け、たくさんの方からの質問にお答えし、また応援メッセージにお応えし、皆様との交流を持つことが出来ました。



「このゆび」よりイベントを終えての感想

昨年十月より、学生運営事務局として、東北復興九大チーム「このゆび」の古賀翔馬をリーダーとし、本イベントを企画させて頂きました。今まで「このゆび」が取り組んできたイベントとは桁違いの規模に、不安を抱えたスタートでしたが、とてもやりがいがありました。テーマの話し合い、様々な準備など、毎週数時間にわたるミーティングを重ねました。時には叱りを受けることもありましたが、様々な方が根気強く支えてくださったことに感謝しております。

今回、JR九州ホールという大きな舞台で、素晴らしいゲスト、協力団体の皆様のお力を借りし、イベントを無事に開催できましたことを、大変うれしく思っています。この経験を生かして、また今後の活動に繋げていきたいと思っています。本当に、ありがとうございました！

東北復興九大チーム このゆび 上枝 萌



ROCINANTES ロシナンテス協力会員の集い 北九州で開催予定です！

このたび、初の試みとして、日頃よりご支援いただいている協力会員の方々の「集い」を企画しております。第1回目は、ロシナンテスの本部事務局のある、地元・北九州市で開催いたします。理事長・川原尚行のミニ講演会やロシナンテスフィルム上映、会員の方々とロシナンテススタッフとの交流などを予定しています。



日 時 2013年6月15日(土)
13:30~16:30を予定

会 場 北九州市立男女共同参画センター
ムーブ・大セミナールームにて
(北九州市小倉北区大手町11番4号)

人数に限りがございますので、詳細が決定しましたら、お申込受付を開始させて頂きます。事前のご予約がない場合のご参加はできませんので、予めご了承ください。ご参加は協力会員の方のみとなります。ぜひ、この機会に協力会員としてご登録ください。

ひとりはみんなの為に みんなはひとりの為に ～アフリカ・スーダンで活動するロシナンテスのことを知ろう！～ パナソニック株式会社NPOサポートファンドfor アフリカ2012 小学生・中学生向けDVD

このたび、パナソニック株式会社様の助成制度(NPOサポートファンドforアフリカ)を活用し、小学生・中学生を対象とした、ロシナンテスの活動紹介DVDを作成しました。このDVDは約20分にまとめられ、スーダンの人々や暮らし、ロシナンテスの活動が分かるようになっています。スーダンという国を相手にすると、予定通りに事が進められず、困難も多くありました。しかし、多くの皆様のご協力により、とても良い内容に仕上がり、大人の方からも好評の出来となりました。この場をお借りし、まずはパナソニック株式会社様、そして制作に多大なご協力を頂きました北九州市立



枝光小学校の皆様、映像撮影・編集などをしてくれた西村様に、深く感謝申し上げます。

本DVDは全国の小学校・中学校へ無料貸出し致しますので、ご希望の方は、本部事務局へお問い合わせください。授業等でご活用いただき、学習に役立てて頂ければ幸いです。

あなたの小学校・中学校でロシナンテスの活動紹介DVDを活用しませんか？

本DVDは全国の小・中学校へ無料で貸し出しをいたしますので、ぜひ、クラスの授業等でご活用ください！

お申込み・お問い合わせ

NPO法人ロシナンテス 本部事務局／山本(やまもと)
☎093-922-6470 ☐info@rocinantes.org

「それぞれの祖国」 川原健太郎

8年ぶりの南スーダン。首都のハルツームに着いたのは、夜の8時半。暗かったため、周りを詳細に見渡すことができなかつたが、8年前とは光景があまりにも違つたので、かなり驚いた。道路の真ん中には区切りがしっかりとあり、信号もあった。上を見上げると、看板まで設置されている。父は、戦争が終わって、他の物に金を注ぎ込むことができると言つていた。それにしても、たったの8年でここまで変貌できる南スーダンの経済成長ぶりは予想を越えていた。

今回の訪問では、JICAのミーティングに参加させていただき、また南スーダンの生徒た

ちがいるハルツームの学校の見学、ハルツーム郊外の医療実態調査、そしてシリフ・ハサバッラ村の視察などがあり、短期間で内容の濃いプログラムになった。その中で私は、それぞれの人間や祖国について、日々、考えることがあった。この場を

お借りし、体感した人間や祖国に関して、自分なりにどう感じたかを述べていきたいと思う。

南スーダン人の特徴としては、彼ら自身

大事にしていることがある。その中でも

身が持つている文化や習慣をすごく

大事にしていることがある。村では村長さんが、道行く村人をご飯に誘つて

がりを重視することである。村では村長さんが、道行く村人をご飯に誘つて

いた。また家族の縦の組織構造(父と子の関係)もすごくしっかりと

いた。さらに、人と話すときは、時間を気にせずに、じっくり話し込むのもスー

ダン人である。必ず何かのおもてなし

をする。そんな様子で、時間がゆくゆく

いると流れいくのを感じていると、本

当に彼らが人との繋がりを大事にし

ているのだと実感することができる。

南スーダン人も、基本はあまり変わらない。しかし、彼らの独自のダンスはとても魅力的で、アフリカというものが肌で体感することができた。私が



スー丹で会った南スーダン人は、

いつか故郷に帰りたいと言つていたし、母国語であるディンカ語を子供たちに教えていた姿には、強い祖國愛を感じた。貧しくても、希望を持つて生きている強い力を目の当たりにした。

日本は、長年、鎖国していたため、独自の文化や文明で発展してきた国である。世界に誇るべきものが多くあるにもかかわらず、近年、祖國というものを意識する人が存在していない。私自身も含めて、日本人は、正直、あるべき自分たちは日本人ならば、本来、「和」を大事にしなければならないのだが、「個」を重視する人が増えていくように見える。今頃は、他人に対する犠牲心も薄れているのが実態であると感じている。これを再び取り戻すには、時間が多くのかかるであろうと思う。

私は一人でも多くの日本人にスー丹に来て、実際にその目で、スー丹というものを見て欲しいと思っている。そうすれば、私が体感したものと似た経験が、少しでもできるのである。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前の由来は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテの乗る瘦せ馬のロシナンテから来ています。「私たち一人一人は瘦せ馬ロシナンテのように無力かもしれない、しかし、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かができるはずだ!と考え、「ロシナンテ」と名付けました。

今後もこれを信念として一步一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

ロシナンテスの活動支援のお願い

同封の「払込取扱票」にて郵便局窓口よりご利用頂けます。

[口座記号]01720-3

[口座番号]74330

[加入者名]NPO法人ロシナンテス

HPよりクレジットカード決済でのご支援も可能です。



事務局スタッフと関係者の皆様と公園にて



事務局長代理・須藤恵子

多大なるご支援ご協力を賜り、感謝申し上げます。お蔭様で活動も9年目に入りました。今年の1月に川原を始め外部有識者、理事並びに事務局スタッフと2日間かけて、年間計画や今後のあるべき姿の構想をしました。スー丹事業・東北事業への皆様の温かいお気持ちは反映していきたいと思っております。

私は、それでも紙媒体において、肌感覚の伝達力があります。とはいっても、テレビやインターネットのような速報性や、動きや音もありません。ただ、一旦、皆様の手元に届けば、目をやらずとも、そこにあり続け、手にとつて読んで頂ければ、印刷物ゆえ、不变の情報を提供し続けます。私ども発行スタッフは、その使命に見合う内容を持つよう、正確さに注意し、訴求性に工夫を重ねています。なればこそ、皆様の感想・ご指摘・ご指導を望んでいます。

私は、いつも皆様の感想・ご指摘・ご指導を伝えたい、皆様はどう感じられましたか?のキヤッヂボールで、皆様に愛読される機関誌にしたいものです。

編修子 永松利一

「遠回り」が、今号で9号を数えます。やつと次号は10号と二桁になります。量的には予算などの関係もあり小柄です。それでも紙媒体であるおかげで、情報力は、IT媒体にならぬままあります。

とはいっても、肌感覚の伝達力があります。私は、それでも紙媒体において、肌感覚の伝達力があります。

私は、いつも皆様の感想・ご指摘・ご指導を伝えたい、皆様はどう感じられましたか?のキヤッヂボールで、皆様に愛読される機関誌にしたいものです。

記